

期日前投票数は微増

前回の選管「制度が浸透」
1.14倍

7/30
横浜市長選

横浜市長選挙管理委員会は24日、市長選30日投票日の前半期間の期日前投票数を発表した。告示翌日の17日から23日までの7日間の投票総数は9万2354票で、前回2013年の8万1157票から1.14倍になった。

同期間中の期日前投票は18区36カ所実施。区別でみると最多は戸塚の1万927票で、旭の7722票、青葉の6602票と続いた。前回との比較で最も増えたのは1.43倍の鶴見。市議補選も同日に行われる

横浜市長選 演説日程

林文字候補 なし
長島一由候補 なし
伊藤大貴候補 午前8時

「菊名駅」午前11時半「セントラル北駅」午後12時45分「セントラル南駅」午後4時「横浜橋南店街」午後6時「菊名駅」(主を予定。変更になる場合がある)

緑は、18区中最低の0.9倍だった。

市選管は、期日前投票数について「お盆休みの期間中に票が伸びた前回は若干上回っており、期日前投票

が浸透してきた。特に駅前あり、多くの人に投票を呼び掛けている。期日前投票所の利用が多い」と分析。前回の投票率が過去最低の29.05%だったことも(横浜市長選取材班)

きょうまで3大学に投票所 神大は在学生在が事務



市長選の投票が公正に行われているか見つけた大学生ら(右側) 神奈川大横浜キャンパス

横浜市長選の投票日まで1週間を切った24日、市内三つの大学に期日前投票所が開設された。初設置の神奈川大横浜キャンパス(同市神奈川区)では、選挙事務を全面的に在学生在が務める珍しい試みが行われている。3大学の投票所は26日まで。

「お疲れさまでした」。投票所を出る有権者に、落ち着いて声を掛ける。受付や投票用紙の交付、投票立会人などを務めるのは、政治や選挙などを学ぶ法学部を中心とする在學生たち。投票立会人を務めた島山佳祐さん(20)は不正がないかどうか、一人一人の投票を見つめた。「気が抜けない厳粛な空気。ミスがなくて当たり前だからこそプレッシャーがある」

今回は18歳選挙権となつて初の市長選となることも踏まえ、若年層への啓発の一環として区選挙管理委員会が同大に協力を依頼。2日間延べ24人の在學生が従事する。参加を呼び掛けた同学部の大川千寿准教授は「有権者としての自分たちの立場を客観的に見られるようになることを期待している」と話す。

大学の期日前投票所は昨夏の参院選では慶応大日吉キャンパスのみだったが、今回は神大と横浜市立大金沢八景キャンパスが加わった。(横浜市長選取材班)